

クレジットカードの上手な付き合い方

ファイナンシャル・プランナー 永野 智子

あなたは家計簿をつけていますか？もしくは、家計簿はつけていなくても、毎月何にいくら出費したかを把握していますか？

表1は日本FP協会が平成21年2月6日～平成21年2月12日と平成22年1月21日～平成22年1月27日のそれぞれの日程で行った若者（20代）と働きざかり（30代、40代）のライフプランニング意識調査の結果です。年代によってそれぞれ困っていることや不安に思うことが異なりますが、両社に共通している項目が『日常の家計管理』です。

表1 問：あなたが生活するうえで、現在および将来について困っていることや不安に思うことはありますか。
（複数回答）

	若者（20代）		働き盛り（30代・40代）	
第1位	日常の家計管理	47.9%	老後の生活設計	49.4%
第2位	職(雇用)の確保	44.7%	年金	38.5%
第3位	年金	41.8%	親の介護	37.3%
第4位	子どもの教育費	32.5%	日常の家計管理	35.1%
第5位	住宅ローンの組み方	20.9%	病気・怪我・死亡への備え	34.1%

出所：日本FP協会「若者(20代)のライフプランニング意識調査」「働きざかり(30代、40代)のライフプランニング意識調査」より筆者作成

昨今では、クレジットカード支払いを利用して、ポイントやマイルを貯めて上手に活用したり、生活にかかる支出をクレジットカードで支払い、その明細書を家計簿代わりに利用している方も多いのではないのでしょうか。

さて、あなたのお財布にはクレジットカードが何枚入っていますか？また、普段使用することなく自宅で眠っているクレジットカードはありますか？

表2はJCBが2009年9月に実施した「クレジットカードに関する総合調査」による年代、性別のクレジットカード保有枚数です。表2の値はあくまでも平均です。日本FP協会の調査では、働き盛りの人で5枚以上保有している人が28.3%もいます。

表2 クレジットカード保有枚数

	男性	女性
20代	2.4枚	2.7枚
30代	3.1枚	3.3枚
40代	3.8枚	4.2枚

出所：JCB「クレジットカードに関する総合調査」2009年度版調査結果レポートより筆者作成

JCB 調査によると近年、公共料金や、光熱費、携帯電話代、ETC などクレジットカード決済領域の拡大により、生活費に占めるクレジットカードの決済比率が年々上昇しているそうです。2009 年に最もクレジットカードが利用された業種はスーパーマーケットです。クレジットカードが如何に私たちの生活に欠かせない存在となっているかが分かります。かといって、クレジットカードを多く保有することに比例して、メリットも多いのでしょうか？

ご存知の方が多くかと思いますが、今年の 6 月からクレジットカードに関する法規制が相次いで導入されます。例えば、既に全面施行された改正貸金業法です。この法律によりクレジットカードでの借入れが「総量規制」の対象となり、年収の 1/3 を超える借入れができなくなりました（住宅ローンや教育ローンなどは除く）。また、12 月までに開始される改正割販法の規制では、一括払い以外（リボルビング払いや 2 回以上の分割払いなど）でのカード使用は買い物枠に上限が設定されます。ということは、クレジットカードを多く保有していても、実際は利用できなくなるケースが発生すると言えます。

ちなみに JCB の先調査によると、世帯当たり月平均クレジットカード利用額は未婚 20 代、30 代、40 代でそれぞれ 3.9 万円、3.1 万円、2.9 万円、既婚 20-30 代、40-50 代ではそれぞれ 4.8 万円、6.6 万円です。上記に挙げた規制の対象となる人は少ないのではないのでしょうか。ただ、注意しなくてはならないケースが、ボーナス払いなど比較的まとまった支出をカード決済する場合です。買い物枠に上限が設置される可能性がでてきます。

ところで住宅ローンを借入れする際に、クレジットカードのキャッシング枠を実際の借入れの有無にかかわらず、金融機関ではローンのキャッシング枠を負債とみなして審査していることをご存知でしたか？クレジットカードを複数所有しているために、ローン申請が通らず、クレジットカードを解約する人が多いと言われています。

今後様々な規制により、クレジットカードの利用やキャッシングが制限されてきます。クレジットカードの中には年会費がかかるものもあるので、今回を機にクレジットカードの保有枚数を見直してみてもいかがでしょうか？メインカードを限定することにより、使用頻度が高くなり、ポイントやマイルが貯まりやすいなどのメリットも出てきます。また、支出を抑えるコツは、毎月の固定費（家賃や携帯電話のオプション料など）を低く抑えることです。普段使用していないのに、年会費を支払っているクレジットカードがあれば、解約することにより無駄な出費を抑えることが可能です。クレジットカードを見直す時には、ポイントやマイルの貯めやすさや、年会費、損害保険機能など付帯サービスの詳細などを確かめましょう。

眠っているクレジットカードに限らず、費用対効果が低いものや、他で代用が可能な物で、支出しているものがあれば、解約を検討してみてもいかがでしょうか。